一般の部

高島清子選

特選

燃えあがる街を映してはまなすの色の夜空を母は語りぬ

大仙市　鈴木　仁

〔選評〕　土崎の空襲だろうか。燃え上がる街の炎が夜空をはまなす色に染めている凄まじい光景。お母さんは生涯忘れられないその現実を何度も語っているのだろう。世界情勢が危うさを増す今、強く訴えてくる歌だ。

秀逸

同胞（はらから）の征きて還らぬ故郷の無人の駅にかなかなの鳴く

秀田市　加藤　隆二

〔選評〕　これも戦争にまつわる歌。駅はかつて出征軍人や見送りの人でごったがえしていただろう。征った同胞は帰らず今は無人駅となってかなかなが鳴くのみ。哀切な歌だ。

開通の余韻を残す水沢橋夜の静寂（しじま）に青き灯ともす

秋田市　工藤　光一

〔選評〕　開通の渡り初めなどの華やかさも去ったのだが、まだ余韻が残っている水沢橋。夜の静寂、青き灯がその余韻をよく伝えていて、新しい水沢橋への思いが感じられる歌。

入選

ももさだのカエルとともにジャンプするメールに届く合格写真

大仙市　鈴木　仁

〔選評〕　秋田市新屋海浜公園。カエルの像と共にジャンプする合格通知。躍動感が伝わる。

青空に飛行機雲の道しるべ足軽（かろ）やかに春色のくつ

秋田市　加成　博子

〔選評〕　春の軽やかな喜びが伝わる歌。「飛行機雲の道しるべ」「春色の靴」イメージ鮮明。

いつか来た道を忘れし顔となり戦の大義滔滔語る

秋田市　加藤　一弥

〔選評〕　語ったのは知人なのか、政治家か。今、世界中に忍び寄る不安を暗示するような歌。

稲の青ひときわ濃くなるその空にお不動様の祭りの狼煙

秋田市　工藤　一子

〔選評〕　稲の青、空も晴れていたろう。色彩感鮮やか。それに狼煙の音。喜びが伝わる。

今日の雨晴耕雨読と決めこんで久に会えない友に文書く

秋田市　工藤　一子

〔選評〕　雨を可として書く手紙。さぞや心のこもった手紙だったろうと想像される。

マスク置き教科書を置き海行けば夏がわたしをつかまえにくる

日本大学大学院　内村　佳保

〔選評〕　上の句の具体的な読みが若さを表出。擬人法が効果的で下の句の感性が生きた。

大会実行委員会　選

特別賞

堅香子の押し花手紙送り来し媼青春九十六歳

秋田市　上松　博

小・中・高校生の部

高島清子　選

特選

「きれいだね」星に見とれる君の目は光またたく小さな宇宙

能代市　能代南中三年　佐藤　佑有

〔講評〕　下の句がとても魅力的。星に見とれる君の目を「小さな宇宙」と捉えた感性と表現力。君の目には光が沢山映ってキラキラ輝いていたのだろう。初句の「　」も印象的。

秀逸

坂道をのぼる貴方の行く先は日向のように暖かな空

秋田市　秋田クラーク高等学院三年　森田　琉生

〔講評〕　実景とも取れるが、友への祝福のメッセージとも読める。この貴方は穏やかで心の温かい人物に違いない。心温まる歌だ。

忘れ物取りに戻った教室はいつもと違う机の匂い

秋田市　秋田クラーク高等学院三年　小笠原里桜

〔講評〕　この歌も作者の感性が光る印象的な歌だ。日常の中にある非日常を瞬間的に捉えるのは容易くはないが作者は匂いで捉えたのだ。

入選

秋が来た赤や黄色の葉っぱたちみんなくるくる楽しいダンス

由利本荘市　西目小三年　金子　奏音

〔講評〕　散っていく葉っぱを下の句のように表現したことによって、楽しい歌になった。

たのしみは待ちに待ってた大会のプレイボールで走り出す時

由利本荘市　尾崎小六年　東海林倖成

〔講評〕　「～は～時」の歌は型にはまりやすい。中でこの歌は型から抜けた勢いがある。

秋の日に田んぼの稲が金色に上から見ると海に似ている

大潟村　大潟小六年　前川　洋嗣

〔講評〕　結句の比喩によって、どこまでも広がる田んぼのイメージが鮮明に表現された。

短　歌　部　門

ビルの町電車の窓から消えていくふるさとの田に心落ち着く

秋田市　寺内小六年　**杉本　優聖**

〔講評〕　上の句が印象的。ビルがまばらになり、田んぼが増えてくる車窓。動画のようだ。

かんとうはあわい光を放ちつつ見る人たちをみりょうしていく

秋田市　中通小六年　**廣瀬　雪菜**

〔講評〕　竿燈を淡いタッチで歌っている。淡い光が集まって人々の心を魅了していく竿燈。

コート上仲間を信じてパスを出すシュートを決めて君が輝く

東成瀬村　東成瀬中一年　**佐々木七海**

〔講評〕　信頼に応える君を賞賛できる作者の人間性が感じられる歌。「君が輝く」がいい。

去年までたくさん制限されてきた思い出増やそう今までよりも

仙北市　西明寺中二年　**佐藤　心温**

〔講評〕　コロナ禍での学校生活。本当に大変だったと思う。だがこの歌は前向きだ。

バレー部はコートのなかで燃え上がる
どんなボールもみんなでひろう

能代市　能代南中二年　**芳賀ひなた**

〔講評〕　「コートの中で燃え上がる」に共感した。体験した人しか出来ない表現だろう。

風ふぶき乱れる髪とその瞳霞のごとく淡き恋心

能代市　能代南中二年　**小林　奈美**

〔講評〕　「ふぶき」は「乱吹（激しく吹く）」か。上の句と下の句の激と淡の面白さ。

入学式ブカブカだった学生服知らぬ間に足首が出る

東成瀬村　東成瀬中二年　**谷藤　春空**

〔講評〕　実感が具体的に歌われているのがいい。下の句のユーモラスで笑いを誘う。

雲白く静かにふりゆく梅雨の雨地面から染み出るペトリコール

東成瀬村　東成瀬中三年　**鏡　遙光**

〔講評〕　結句の語、新鮮。雨が降った時地面から上がってくる匂いはどんな匂いだったか。

夕暮れのピンクに染まる雲の色この空みんな見ているのかな

潟上市　秋田西高二年　**佐藤　遥香**

〔講評〕　下の句からこんな美しい空をみんなにも見せたいという作者の優しさを感じる。